

地理歴史科（世界史探究）学習指導案

1 単元名 アジア諸地域の動揺

この単元は、「2 内容」の「D 諸地域の結合・変容」の「(2) 世界市場の形成と諸地域の結合」のうち、(イ)に該当する（授業は旧課程3年生「世界史B」で実施）。

2 単元の目標

- (1) 国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解する。
- (2) 世界市場の形成とアジア諸国の動向に関する諸資料を比較し、関連付けて読み解く。
- (3) 世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的かつ多角的に考察し、表現する。
- (4) 労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などについての多面的・多角的な考察や、世界市場の形成とアジア諸国の変容についての構造的な理解を通じて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする。

3 単元の指導計画(全体9時間)

(1) 指導計画

- ・西アジア地域の変容 2時間
- ・南アジア・東南アジアの植民地化 2時間
- ・東アジアの激動 3時間
- ・東アジアにおける冊封体制とその崩壊 2時間(本時2/2)

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 ・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関連する諸資料を比較したり関連付けたりして読み解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的かつ多角的に考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などについての多面的・多角的な考察や、世界市場の形成とアジア諸国の変容についての構造的な理解を通じて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (2)	【学習課題】<単元を貫く問い>「世界市場に組み込まれたアジア諸国の政治および社会は、どのように変容したか」						
	【学習課題】「19世紀エジプトで、どのような政治的变化が起こったか」 ・アラブの目覚め ・エジプトの自立	【ねらい】エジプトの政治的变化について、オスマン帝国および列強との関係を軸に理解する。 ・講義を受け、学習課題に取り組む。	●	●	●	(B) 19世紀エジプトの自立の動きをおおむね理解している。 (C) 添削指導を行う。	・論述問題の記述を基に評価する。
	【学習課題】「タンジマートはなぜ挫折したか」 ・オスマン帝国の改革 ・イラン、アフガニスタンの動向	【ねらい】タンジマートの内容と、改革が挫折した背景を、当時の国際情勢を軸に考察する。 ・講義を受け、学習課題に取り組む。	●	●	●	(B) タンジマートの内容と改革失敗の流れを概ね把握し、表現している。 (C) 添削指導を行う。	・論述問題の記述を基に評価する。

第2次 (2)	<p>【学習課題】「植民地支配により、インド社会はどのように変容したか」</p> <ul style="list-style-type: none"> インドの植民地化 	<p>【ねらい】 植民地支配が侵攻する中でインドの伝統社会がどのように変容したか、所有権を軸に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義を受け、学習課題に取り組む。 	●	●	<p>(B) インドの伝統社会の変容について、土地に関する問題から考察している。</p> <p>(C) 添削指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 論述問題の記述を基に評価する。
	<p>【学習課題】「東南アジアはどのように世界市場に組み込まれたか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 東南アジアの植民地化 	<p>【ねらい】 東南アジアの植民地化の進展について、各国の違いを意識しながら理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義を受け、学習課題に取り組む。 	●	●	<p>(B) 東南アジアの植民地化の進展について、おおむね理解している。</p> <p>(C) 添削指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 論述問題の記述を基に評価する。
第3次 (3)	<p>【学習課題】「清はなぜアヘン流入を止めることができなかったか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 清朝支配の動揺 列強の進出とアヘン戦争 	<p>【ねらい】 アヘンの流入増加とアヘン戦争勃発の背景について、国内・国外の双方の要因から考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義を受け、学習課題に取り組む。 	●	●	<p>(B) アヘン戦争の背景について、国内外の事情を踏まえて考察している。</p> <p>(C) 添削指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 論述問題の記述を基に評価する。
	<p>【学習課題】「太平天国の乱はなぜ拡大したのか、またどのように鎮圧されたか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 太平天国の乱 	<p>【ねらい】 太平天国について、勢力拡大と鎮圧の背景となった国内の富裕層と貧困層の対立の構造に着目しながら考察し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義を受け、学習課題に取り組む。 	○	●	<p>(B) (C) (4)アを参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 論述問題の記述を基に評価する。
	<p>【学習課題】「19世紀後半、東アジア各国の政治はどのように展開したか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半の東アジア各国の政治展開 	<p>【ねらい】 東アジア各国の動向について、中国との関係を踏まえながら、体系的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義を受け、学習課題に取り組む。 	○	●	<p>(B) (C) (4)イを参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> 論述問題の記述を基に評価する。
第4次 (2)	<p>【学習課題】「15世紀以降、冊封体制はどのように展開し、また19世紀にどのように崩壊した」</p> <ul style="list-style-type: none"> 冊封体制の展開と崩壊 	<p>【ねらい】 冊封体制の展開と崩壊に関する史料を基に、15世紀から19世紀に至る時代を俯瞰して考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 班ごとにワークシートに取り組む 各班が合流し、答案を作成する。 	○	○	<p>(B) 定期考査の出題で評価</p> <p>(C) 考査の結果を踏まえ、再指導を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査
	<p>【学習課題】「これまでの学習内容を踏まえ、これ以降の東アジア史の展開について興味をもったことを、「問い」の形で表現する」</p> <ul style="list-style-type: none"> 東アジア史の展望 	<p>【ねらい】 これ以降の東アジア史についての興味・関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りをする。 		○	<p>(B) (C) (4)ウを参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記入内容を基に評価する。

(4) 評価問題（評価材料）及び評価規準

ア 学習課題（第3次）の評価規準【思考・判断・表現】

・ 太平天国の乱の拡大と鎮圧の時代背景を考察し、表現している。
判断基準
「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・ 太平天国の乱の拡大と鎮圧の背景について、国内の富裕層と貧困層の対立を軸に考察している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・ (B) の基準に加え、アヘン流入の背景にある国際情勢を踏まえた考察している。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・ 太平天国の乱の拡大と鎮圧の背景にある国内対立を把握できていない。→個別に添削指導を行う。

イ 学習課題（第3次）の評価規準【知識・技能】

・ 19世紀後半の東アジア各国における政治動向を理解している。
判断基準
「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・ 東アジアの政治動向について、各国の違いを踏まえた理解ができています。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・ (B) の基準に加え、国際情勢の動向を踏まえた理解ができています。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・ 東アジアの政治動向について、各国の違いを踏まえた理解ができていない。→個別に添削指導を行う。

ウ 学習課題（第4次）の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

・ 学習内容を踏まえ、これ以降の東アジア史の展開について興味をもったことを、「問い」の形で表現することができる。
判断基準
「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・ これ以降の東アジア史の展開について興味をもったことを、「問い」の形で表現することができる。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・ これ以降の東アジア史の展開について興味をもったことに対して、複数の「問い」を立てている。もしくは、「問い」が1つであっても、多角的な視点から考察する必要がある「問い」を立てることができている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・ 19世紀以降の東アジア史の展開についての「問い」を立てることができない。 →個別に単元の振り返り指導を行う。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

15世紀以降の冊封体制の展開と、19世紀におけるその崩壊について、史料から読み取ったことを考察し、これ以降の東アジア史の展開について興味をもったことを、「問い」の形で表現する。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・ 準備	・ 前回グループワークと同じ班に分かれる。 ・ 解説プリントを受け取る。	・ 前回の内容を確認する。
展開	・ 添削及び採点	・ 解答例を参考にして、自班の答案を添削する。 ・ 班の答案に、20点満点で採点する。	・ 採点が細かくなりすぎないように指示する。
まとめ	・ 「問い」の表現	・ 学習を踏まえ、これ以降の東アジア史の展開について興味をもったことを、「問い」の形で表現する。	○ワークシートの記述内容 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の評価規準

3 (4) ウ参照。

5 成果と課題

(1) 成果

9 班中 7 班が解答を作成することができた。また、授業の前半における班ごとの取組については、苦戦する生徒が見られたが、最初から全く取り組まない生徒はいなかった。難問にも関わらず、生徒は一生懸命考えており、またグループワークでは、積極的に意見を交わす場面が見受けられ、意欲的に学習に取り組む姿を見取ることができた。

R80 を始めた当初、易しい問いに対しても、解答できない生徒が多くいたことを考えると、問いに対して既習の知識を活用しながら思考し、表現することが習慣化されたと言える。そして、ほとんどの生徒が、東アジア史についての「問い」を表現することができており、日頃から問いを意識して学習してきた成果だと言える。内容については、B 評価となる者が多かったが、今後、生徒が挙げた「問い」を活用した授業を展開することで、生徒の興味・関心を高め、生徒が自ら学習をするように促し、思考力や表現力を向上させていきたい。

(2) 課題

今回の実践を通して、日頃の学習が十分に身に付いていない生徒がいることがはっきりした。学習課題に取り組もうとはするが、すぐに諦め、グループワークでも意見交換ができずに解答を完成させることができない者がいた。そうした生徒は、「問い」を表現することができなかった。私が生徒の状況を把握できていなかったことを反省し、一斉授業ではなく個別指導を充実させ、授業改善に取り組んでいきたい。

6 参考文献

- ・上田信『中国の歴史 9 海と帝国 明清時代』（講談社学術文庫、2021 年）
- ・岸本美緒『世界史リブレット 13 東アジアの近世』（山川出版社、1998 年）